

「あんさん方の軍事基地のど真ん中に、わしらの国が存在 して悪おしたな」——ロシア外相国連演説

By Carla Stea

Global Research, October 14, 2014



2014年9月27日国連総会での勇気ある素晴らしい演説において、ロシア外相セルゲイ・ラヴロフは、国連でのあまりにも多くの演説の特徴である韜晦のヴェールに穴をあけ、西側帝国主義、つまり正確には地球の強奪としか言えない帝国主義を、辛辣にこき下ろした。ラヴロフはロシア連邦を代表して、アメリカ/NATOが、広大な領土を奪ってこれを支配するような行動に出るならば、そして何がなんでもロシアを征服して支配しようとするならば、それは地球戦争の危険を冒すことだ、それは、ナポレオンがロシアを支配しようとしてフランスを崩壊に導き、ヒトラーがロシアを制服しようとして彼の「第三帝国」を消滅させたという歴史の現実を知らない者のすることだ、と警告した。

おそらく、このロシアを征服して従属させようとする3度目の試みは、地球上の広大な領域を巻き込む戦争に世界を導くだけでなく、論理的に、資本主義の究極の衰退をもたらす触媒になるかもしれない。それはほとんど全面的に、帝国主義を土台として繁栄する経済システムであり、現在、おそらく終末の危機を経過しつつある——フランスの経済学者 Thomas Piketty のベストセラー『21世紀の資本論』に説明されている通り。自暴自棄になった機能不全の西側資本主義は、その近視眼的な政策の悲惨な成り行きをもあきらめられず、向う見ずで不合理な行動に打って出ようとしている。

ラヴロフはこう述べた――

「自分のことを自国内では、民主主義、法と人権のルールの擁護者であるかのように見せかけている、アメリカ主導の西側連盟は、国際的な場では、その正反対の立場から振る舞っており、国連憲章に保護されている国家主権の平等性という民主主義原理を拒否し、あらゆる者に対して、何が善で何が悪かを決めつけようとしています。」

「ワシントンは、それがどこであろうと自分の利益を守るために、一方的に武力を行使する権利を公然と宣言しています。軍事介入が恒常化し、アメリカがここ数年にわたって実行した力による作戦が、すべて悲惨な結果になったにもかかわらず、それは行われています。」

「国際秩序の持続安定性が、NATO のユーゴスラビア爆撃、イラク介入、リビア攻撃、アフガニスタンでの作戦の失敗などによって、ひどく脆弱化させられました。熱心な外交的努力によって、やっとシリアへの侵略は 2013 年に食い止められました。さまざまな“カラー革命”（政権交替）や他の不適当な体制の変更計画は、混乱と不安定を起こさせるのが目的だという印象を与えています。」

「今日、ウクライナはそのような傲慢な政策の犠牲者になっています。そこでの状況は、ユーロ - 大西洋地域に存在している構造の、根深い仕組み上の欠陥の名残を示しています。西側世界は、自分自身のとうてい正当とは言えない基準に合わせた、“人類の縦の構造”に向かって進路を取り始めています。冷戦の勝利と“歴史の終わり”を宣言したのち、アメリカと EU は、ヨーロッパ全人民の法的な利害のバランスを考慮することなく、地政学的領域を自分たちの支配下に拡大する選択をしました。・・・NATO の東側への拡大が、それを禁止する約束が交わされていたにもかかわらず、続けられました。敵対的なレトリックへの、ロシアとの協力の破棄への、NATO のすばやい切り替えが行われ、これがたとえ西側自身の利益を損ねても実行され、そればかりかロシアの国境に軍事基地が建設されるということ――これが、冷戦時代に NATO が植え付けた遺伝子コードを変えようという協定を、不可能にしているのは明らかです。」

「アメリカと EU はウクライナのクーデタを支持し、自己宣言によるキエフ政府のいかなる行動をも無条件に正しいものとする、過去に逆行する態度を取りました。キエフ政府は、ウクライナ人民の一部を力によって抑圧する選択をしましたが、そもそもこの人たちは、反憲法的な生き方を全国民に課する試みを拒否し、彼らの本来の言語、文化、及び歴史を護る権利を擁護しようとした人たちです。クリミアの人々が自分の手に運命を握り、自己決定の選択をしなければならなかったのは、まさにこれらの権利への侵

略的攻撃のためです。これは、ウクライナの内紛にまず初めに責任のある人々が何をでっち上げようと関係なく、絶対的に自由な選択です。」

「真理を曲げ、事実を虚偽の非難の背後に隠そうとする試みが、ウクライナ危機のあらゆる段階でなされてきました。2月のマイダンでの流血事件、オデッサ、マリウポル、その他ウクライナ各地で起こった、膨大な人命の失われた事件を追及し、責任者を起訴する試みは全く行われていません。南東ウクライナでのウクライナ軍の行動によって引き起こされた、呆然とするほどの人道的災害の規模は、意図的に過小評価されています。最近、ドネツク郊外に集団の墓がいくつも発見されたとき、新しい恐ろしい事実が明るみに出ました。UNSG（国連事務総長）決定 2166 号にもかかわらず、ウクライナ領空でのマレーシア旅客機墜落の諸事情の、徹底した独立した調査は引き延ばされています。これらのすべての犯罪の犯人たちを突き止め、法廷に突き出さなければなりません。それなしには、ウクライナにおける国家的和解は期待できません。」

真理と国際法を完全に無視して、キエフ政府は現在、究極の欺瞞行為によってウクライナ危機を無慈悲にもエスカレートさせようとしており、ウクライナ大統領ポロシェンコは軍の装備を整え、ロシアの生存と彼自身の破産した国家の生存をさえ脅かして、今、ロシアとの全面戦争を口にしてている。

先月ワシントンは、キエフ政府への軍事援助として、アメリカの納税者による 5,300 万ドルの金を約束し引き渡した。キエフ政府は、ロシアのプーチン大統領と OSCE（欧州安全保障協力機構）によって取り決められた休戦を、より進歩した恐ろしい兵器を調達し、東部と南東部ウクライナの市民に対するもう一つの野蛮な攻撃を行うための、準備に利用している。これらの地域で起こった、4,000 以上にのぼる東ウクライナ市民の虐殺と、100 万以上の亡命者の悲惨な窮状は、今年 4 月の CIA 局長ジョン・ブレナンの“隠密の”（偽名を使った）キエフ訪問の後で起こったものである。

そもそも、不服従のウクライナ市民の絶滅キャンペーンは、東部ウクライナが、ナチスに乗っ取られ西側に支配されたキエフ政権を、拒否したために起こったことだが、米/NATO の、東部ウクライナ市民に対する更なる虐殺の意志の、おそらく最も鉄面皮な表明は、米務長官・対欧州ユーラシア問題補佐官の Victoria Nuland が、今月、ウクライナへ戻ったことである。ヌーランド女史は、この 2 月、“Fuck the EU”（EU などクソ食らえ）と言ったことによって、世界的に有名になった人物だが、これは彼女がワシントンのネオコン・スポンサーを代表して、ウクライナの不安定化を画策したときの発言で、このとき民选的に選ばれたヤヌコヴィッチ大統領は放り出され、ウクライナは、世界を第三次大戦という大火災に巻き込むかもしれない内戦状態に陥れられたのである。

2014年10月7日、キエフの Taras Shevchenko 国立大学で行われたスピーチで、ヌーランド女史はこうホラを吹いた——「ウクライナは今年、アメリカの財政援助と10億ドルのローンの形で、2億9,000万ドルを受け取っています。そして現在あなた方は、あなた方の多くがマイダン騒乱で要求したもの、つまりヨーロッパとの労資協定と Deep and Comprehensive Free Trade Agreement を得ています。この“労資協定”(Association Agreement)とは、ウクライナを事実上、NATOとIMFへの人質とするもので、その“緊縮措置”の強制は、すでに貧困状態にあるウクライナ人の生活水準をさらに低下させるものである。ヌーランド女史は「トロイの木馬」をウクライナに持ち込み、信じやすいウクライナの学生たちをうまく騙し、究極的に、米/NATOが仕掛けようとしている戦争の“大砲のエサ”として使うつもりでいる。

更に9月27日の国連総会への演説で、ロシア外相ラヴロフはこう述べている——

「それほど遠くない歴史を思い出してみてください。1933年、ソビエト連邦との外交関係を樹立する条件として、アメリカ政府はモスクワに対し、アメリカの内政への不干渉の保障と、アメリカの政治・社会秩序を変える目的で、いかなる行動をも取らないという約束を要求しました。その当時、ワシントンは革命のウィルスを怖れており、今言った保障は、相互信頼に基づいて記録されました。おそらく、この話題に立ち返って、普遍的な立場において、アメリカ政府のこの要求を再び持ち出すことには意味があります。この総会は、主権国家の国内問題への干渉を許さず、政権交替の方法としてのクーデタを認めないという宣言を採択すべきではないでしょうか？ ある国家が他の国家に対して不法な圧力をかける試みを、国家間の相互関係から全面的に排除すべき時がきています。一方的制裁の無意味さと非生産性は、アメリカのキューバへの経済封鎖の例を見れば明らかです。」

「最後通牒とか、優越性と支配の哲学といったものは、21世紀の要求に合うものでなく、多中心性と民主主義の世界秩序の発達という客観的プロセスに逆行するものです。」